

令和7年度 第7回府中市環境保全活動センター検討調整会 議事録

- 日 時：令和7年10月21日（火）午後2時～3時30分
- 場 所：市役所おもや3階会議室A302
- 出 席：（敬称略）
(委 員) (7名) 石川 伊智郎、浅田 多津子、藤間 利明、室 英治、
杉村 康之、西尾 克人、竹嶋 仁
(事務局) (3名) 田口 敦、熊谷 一茂、青木 大地
- 欠 席：（敬称略）
(委 員) (1名) 塚原 仁
(事務局) (1名) 柳下 豊宏
- 議 事
1. 報告
- ① 令和7年度 第6回検討調整会議事録・・・
(事務局：青木) 議事録内容について説明。
(事務局：田口) 2. 議事の中において、「軸がぶれてしまいまうため」と誤字があるため、修正を行う必要がある。
- ② 活動センター事業について・・・
・(事務局：青木) 9月20日に農工大サークルごみダイエットNOKOと明星学苑とのコラボ企画「ふちゅう環境教室」が開催された。明星中学校生徒が40名参加され、クイズやチーム学習を通じてプラスチック問題などについて楽しく学ぶことができた。
9月21日には、「つくろう！学ぼう！自然・環境体験学習②」が開催され、農工大昆虫研究会による案内のとも、府中の森公園にて自然観察が行われた。14家族28名が参加された。
- 10月5日の「環境まつり2025」ではセンターのPRとして今年度の活動写真を用いたパネル展示を行い、10月13日の「森キッズクラフトDAY」においては缶バッジ作成ブースを展開した。新たな試みであるスマート連絡帳による広報の効果が大きく、参加人数は144名にのぼり、市内の小学生が多く参加された。
- 10月15日の第5回かんきょう塾では、町田バイオエネルギーセンターと剪定枝資源化センターを見学。当日の欠席はほとんど無く、予定していた行程通りに進めることができた。行きのバス車内において、藤間委員より当市と町田市のごみ処理の比較について事前説明をしていただいた。
- 11月8日に予定している第6回かんきょう塾については、定員30名のうち、既に21名の申込がなされている。引き続き参加者を増やしたい。

- ・(藤間委員) かんきょう塾の第8回でグループ発表を行うが、具体的に発表の仕方について確認したい。グループ各々のパソコンをプロジェクトターに接続すると時間を要してしまう可能性があるため、事務局のパソコンにグループの発表データを集約するのはどうか。また、グループ活動の参加者に対する修了証の交付についても検討いただきたい。次回かんきょう塾を開催する際に受講者へ具体的な内容を伝えられるとよい。
- ・(事務局:熊谷) 発表資料については、各グループが用意したパソコンにて対応する予定。発表前に接続チェックを行い、スムーズに切り替えられるようにする。なお、パソコンの持参が難しいグループについては事務局が個別に対応する。
- ・(杉村委員) 12月14日に開催を予定している第7回かんきょう塾の進捗について確認したい。
- ・(事務局:青木) 現在、資源循環推進課と講座の内容等について調整中。決まり次第、改めて報告する。
- ・(浅田委員) かんきょう塾のCグループとして活動しているが、グループ発表で使用する材料として受講者に対するアンケートを実施したい。アンケートの内容は、家庭でのごみ減量の工夫についてである。次回以降のかんきょう塾にて用紙を配布するにあたり、後日リーダーから事務局へアンケートのデータを共有する。
- ・(杉村委員) 春の親子かんきょう塾バス見学について、候補地として「トロの森(狭山丘陵)」はどうか。

③ その他・・・無し。

2. 議事

① 活動センターの運営方法について・・・

事務局:青木より、目的や流れを明記した「論点整理シート」に沿って、達成までのイメージを共有。また、先日行われた協働共創推進課との話し合いの中で事業実現の方策として「市民協働・共創促進事業」を紹介されたため、概要の説明を行った。協働共創推進課から提供を受けた記事案も踏まえ、委員・事務局より以下のとおり意見がなされた。

- ・(事務局:熊谷) ワークショップの開催に向け、本事業を利用することは、費用面でメリットあり。民間団体からの応募をもとに実施されるため、コンプライアンス的な問題も無い。令和7年度の提案は既に受付終了のため、令和8年度の第1回を狙って募集をかけるイメージである。
- ・(藤間委員) 本事業は審査制であるため透明性の確保としては良いと思うが、

後々の運営に懸念あり。事業と共に実施する民間団体については、指定管理業者のような形で上手く繋げていくのが理想である。ワークショップそのものの開催とその後の運営について切り離して考えるかどうかが問題である。

- ・(事務局：熊谷) センターの目指すべきところが定まっていなかっため、まずはワークショップで意見を募って、「何をしていくものなのか」を作り上げていく必要がある。ワークショップの開催はセンターの方向性を定めるための第一歩として考えている。
- ・(室委員) ワークショップが市民の役に立つという具体的な理由がないと厳しいのではないか。ワークショップの開催による成果を事前にイメージしておく必要がある。
- ・(事務局：田口) ワークショップの結果を実際の事業にどのように繋げられるか、将来的な部分を考えないと意味がない。開催して終わりにならないように、テーマは慎重に設定したい。
- ・(浅田委員) 例えば、長野県飯田市では環境都市として地域ぐるみでまちづくりを目指す動きがある。行政だけでは担えないような大きなものが必要なのか。
- ・(石川委員) ワークショップは目的ではなく手段である。目的に到達するためにワークショップを開催するというストーリーにすれば良いと思う。
- ・(藤間委員) 解決策のイメージをしっかりと記載する必要がある。例えば「ワークショップを開催して○○したい」という記載に変更する。また、センターの現取組をできる限り記載したうえで、より魅力あるものにしていくための提案も募集すべきである。お金をかけてでも事業としてやるべきなのかを今一度考えて整理したほうが良い。
- ・(浅田委員) 募集する記事案の中身まで本日考えるのか。今後の時間軸を確認したい。
- ・(事務局：熊谷) 本日は本事業を進めて良いかどうかについて、委員の皆様からの意見を募るところまで。協働共創推進課へのテーマ出しは来年1月中旬頃までに行う想定であり、それまでにテーマ内容をブラッシュアップしたいと考えている。ワークショップ開催に向け、通常予算の確保も目指していくが、まずは本事業を進めて良いか皆様に確認したい。
- ・(委員一同) 本事業を進めることについて了承。
- ・(藤間委員) ワークショップに加えて、アウトプットとして提案書（成果物）を作成すると良い。例としては「魅力ある○○を作るための提案書」。
- ・(西尾委員) 将来的に市民営化を目指すのであれば、募集記事にもその旨を加えた方がよいのではないか。また、論点整理シートに達成イメージが記載されているが、達成予定の年度についても追記して欲しい。

- ・(事務局:青木) 本事業を進めることについて皆様から了承が得られたため、募集記事の内容については次回以降進めていきたい。

② その他

- ・(藤間委員) 11月11日(火) 午前9時～正午に府中市内で名木百選を巡る観光ガイドツアーが開催されるとの情報提供。
- ・(事務局青木) 第6回かんきょう塾のチラシを委員の皆様に共有。30名定員の申込制だが、現時点でまだ空きがあるため、周知のご協力を依頼。
- ・(事務局青木) 今年度から選任された藤間委員を除き、11月14日で検討調整会委員の任期(2年間)が満了となる。継続意思の確認書類を本日お渡しするため、10月31日までに青木へ提出していただくよう依頼。

4. その他・・・

次回は、令和7年11月20日(木) 午後2時～@おもや3階会議室A301での開催に決定。西尾委員は都合により欠席となる旨報告あり。